

釧路・根室

とっておきの 太平洋沿岸地帯の希少種たち

釧路市 佐藤 照雄

釧路地方の太平洋沿岸には砂浜、草原、沼や湿地、風衝地など様々な環境があり、それぞれに適応して多くの植物が生育しています。その中には希少種(環境省レッドデータリスト 2020 掲載種)も多くあり、その中のいくつかを、いつまでも咲き続けることを祈りながら紹介します。

クシロネナシカズラ

釧路地方では唯一白糠町庶路の海沿いの深い草地で、オトコヨモギの茎に巻きついて自生しています。ネナシカズラは花柱が1本で柱頭が2裂しますが、クシロネナシカズラは柱頭が線形で2個あるのが特徴で、開花期の分岐したつるがひときわ紅く美しいのが印象的です。この花には2014年にやっと出会えたのですが、その後盗掘が主な原因で年々数を減らし2年前からこの場所では姿を見ていません。ホテイアツモリソウと並ぶ絶滅危惧IA類(CR)に指定されていますが、アツモリソウ同様に幻の花になるのかも知れません。

キタミソウ

この花は十勝の豊頃町湧洞沼での生育が知られていますが、釧路地方では五十嵐博氏によって初めて自生が確認されたもので、2015年7月に氏の情報をもとに撮影できた花です。音別町市街地の海沿いの泥地に少数が生育していますが、普段は泥水で埋ま

り知らずに踏みつぶされているような特殊な環境の中で、水が引くと白色の2mmほどの小さな花をしっかりと見せてくれます。

この花は水位との関係が重要らしく、深い水につかる時期がないと生育できないようですが、もともとタネはカモメなどが十勝から運んできたのだろうかと思いをめぐらしながら、この不思議な花にマクロレンズを向けたのでした。分布地や個体数が極めて少なく絶滅危惧II類(VU)になっています。

エゾウスユキソウ

この花は太平洋の厳しい海風に耐えながらも、釧路町の人目につかない海食崖に広がる笹原の中や道路脇の法面でひっそり生きています。別名レブンウスユキソウと言われるように礼文島など北海道の一部にしか分布していない絶滅危惧IB類(EN)の希少種で、近年ここ釧路のエゾウスユキソウも多く愛好者に知られるようになり、観察会などでも人気のスポットになっています。そのため一部の自生地が盗掘などで消滅し、残念ながら絶滅が危惧されています。

イソスマレ

この花には2012年以来、5月になると毎年のように会いに行くのですが、冷たく吹き付ける冬の海風に耐えて美しい薄紫の大輪の花を咲かせる健気な姿に、いつも感動させられます。東北道では唯一釧路市の限られた所